

とよ ます しん じ さん(37)  
 豊 増 伸 治

# ひと

「勉強のためではない、生きてみないか」と情報科学を選きた科学を教えたい」。天文台がある和歌山県美里町の大成高校美里分校の非常勤講師になり、そう考えていた。「この町で無線LANを作っ

てみないか」と情報科学を選きた3年生19人に呼びかけた。2年前の春のことだ。

町は人口4千人余り。「星ふるまち」で売り出すほどの山間の地にあり、インターネットの高速通信網はなかった。「何で自分たちが」と戸惑う生徒に、「ネットなら田舎でも世界とつながる」と楽

しさを説いた。

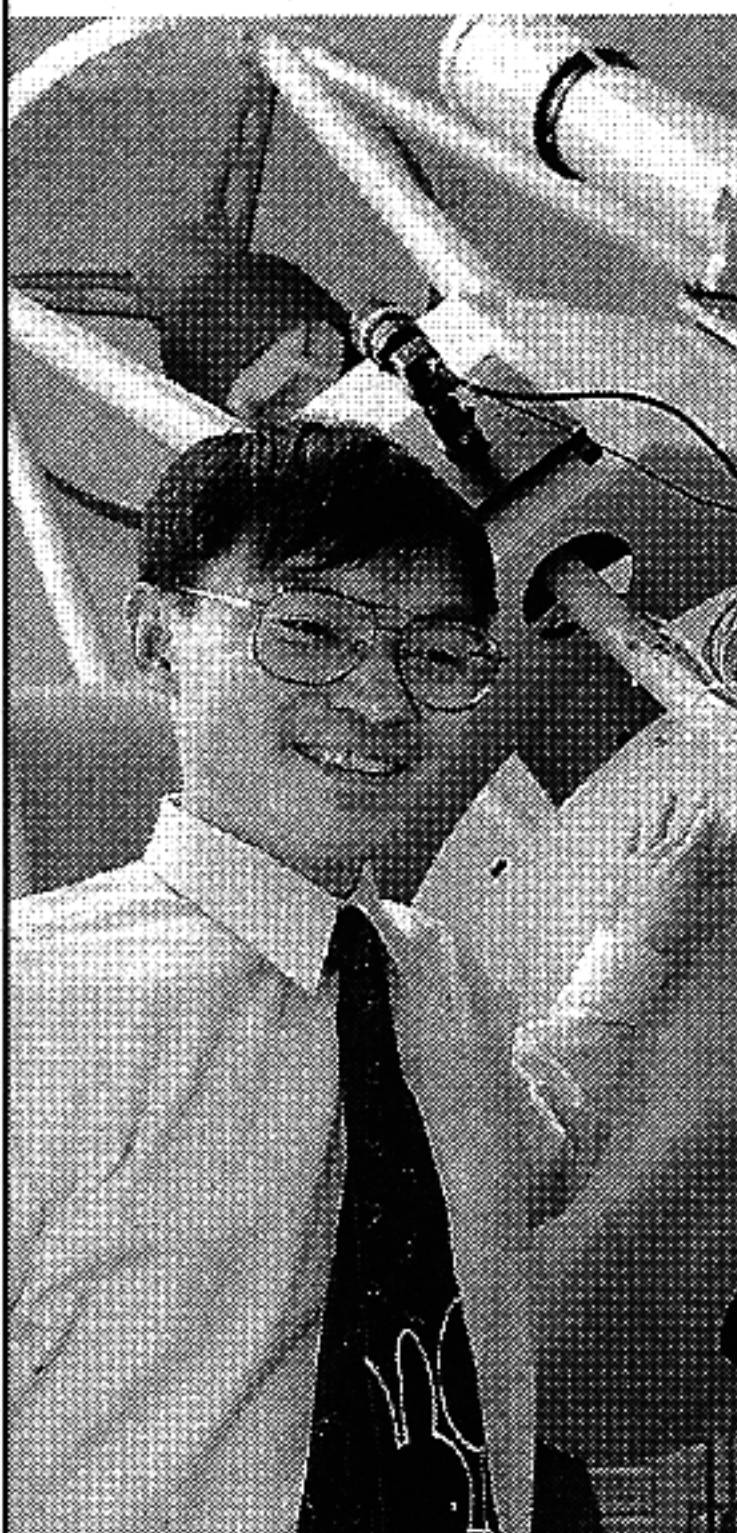
アンテナの場所を自分たちで選び、放課後も使って8カ月がかりで開通させた。生徒らはネットで小中学生を相手にテレビ授業をするまで成長。こうした実践が「科学的思考を深めた」と評価され、小柴昌俊博士がノーベル賞の賞金などで設立した財団の賞

に選ばれた。

に選ばれた。

愛知県豊橋市生まれ。豊橋技術科学大を卒業後、国立天文台で電波望遠鏡の製作にかかわった。95年、国内で指折りの望遠鏡を備えて新設された町立みさと天文台の公募に応じた。観望会などの業務の後は朝まで研究に没頭する。「みんなでとった賞」と、賞金100万円から昨春卒業した教え子らに1万円ずつ贈っている。封筒には「ノーベルさんのおすそわけ」と手書きしてある。「必ず一人ひとりに手渡したい。その後の成長ぶりを確かめたいから」

賞金100万円から昨春卒業した教え子らに1万円ずつ贈っている。封筒には「ノーベルさんのおすそわけ」と手書きしてある。「必ず一人ひとりに手渡したい。その後の成長ぶりを確かめたいから」



文 杉本 潔  
 写真 上田 潤